

1. 鈴鹿市におけるスクールバス導入の背景

1.1. これまでの経緯

鈴鹿市では、子どもの社会性育成機能の低下や少子化の進展が中長期的に継続することが見込まれ、学校の小規模化に伴う教育上の諸課題が、今後より一層顕在化する可能性がある。実際、小学校の児童数は平成 21(2009)年度の 13,000 人をピークに減少傾向になっており、新生児が少なく人口減少が進む地域も存在する。

このような状況から、鈴鹿市では、平成 30(2018)年 3 月には、適正な学校規模のあり方やその実現に向けた方策などを「鈴鹿市学校規模適正化・適正配置に関する基本方針（以下、「基本方針」という。）」として取りまとめている。

また、平成 27(2015)年には、「鈴鹿市公共施設等総合管理計画」を策定し、学校施設を含めた公共施設を一元的に管理することで、市民ニーズや社会経済環境の変化を見据え、財政面での負担を軽減しながら合理的な維持更新を行っていくこととし、施設総量の抑制などを対策目標として掲げている。

1.2. 児童数の将来推計

鈴鹿市では、各小中学校における 20 年後までの児童生徒数や学級数の見込みを把握するために、「児童生徒数・学級数の推計（以下、「20 年推計」という。）」を毎年度作成している。

令和 5(2023)年度の 20 年推計によると、天栄中学校区の合川小学校及び天名小学校において、複式学級が発生し、「過小規模校」になることが見込まれている。

また、同じ天栄中学校区の栄小学校と郡山小学校においても、児童数は減少傾向にあり、「小規模校」の状況が続く見込みとなっている。

このほか、白鳥中学校区の井田川小学校では令和 10(2028)年度から、鈴峰中学校区の庄内小学校では令和 11(2029)年度から複式学級の発生が見込まれている。また、令和 18(2036)年度には、鈴峰中学校での学級数が 5 になり、「過小規模校」になることが見込まれている。

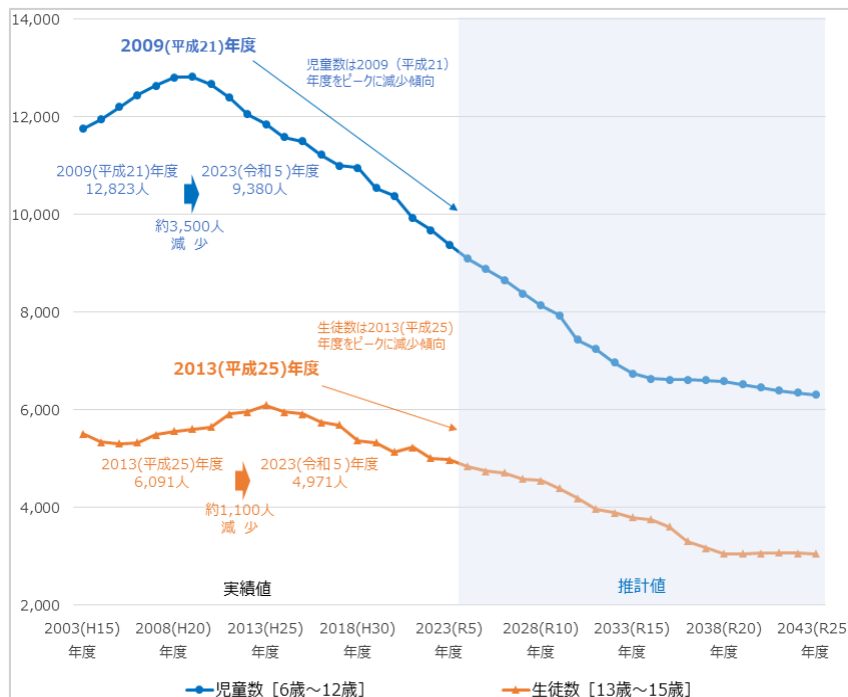


図 1 市内の児童生徒数のこれまでの推移と今後の推計

1.3. スクールバス導入の必要性

令和 5(2023)年度の 20 年推計によると、天栄中学校区にある合川小学校では令和 6(2024)年度に、天名小学校では令和 8(2026)年度に複式学級が発生するとともに、その状況は今後も継続することが見込まれている。

そこで、令和 5(2023)年 12 月に策定された「天栄中学校区における学校再編計画」では、両校に隣接する郡山小学校を含めた 3 校で学校再編を行い、令和 8(2026)年度に、現在の郡山小学校の校舎を活用する形で「新たな小学校」を開校する予定が示されている。

また、同計画では、天栄中学校区の 4 小学校（合川小学校、天名小学校、郡山小学校、栄小学校）と天栄中学校で学校再編を行い、令和 14(2032)年 4 月を目途に、鈴鹿市の新たな教育環境としてモデル校ともなる「義務教育学校」の早期開校を目指すことが打ち出されている。

なお、「新たな小学校」の開校に向けた検討課題として、「スクールバスの運行に関すること」を掲げており、学校再編により通学距離や通学時間が長くなる児童に対しては、安全面や身体的負担に配慮し、スクールバス導入を検討することとしている。

本検討では、スクールバス導入に際し、鈴鹿市の実情に即したスクールバスのあり方について、中長期的な運行を見据えて、意見及びニーズ把握調査を行い、先進事例を踏まえつつ、具体的なスクールバス導入の考え方を整理するものとする。